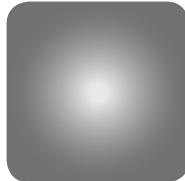


気候 ネットワーク 通信

— 第 74 号 —
2010.9.1



気候ネットワークは、温暖化防止のために市民から提言し、行動を起こしていく環境 NGO/NPO のネットワーク組織として、多くの組織・セクターと連携しながら、温暖化防止型の社会づくりをめざしています。



わたしたちはめざします

1. 京都議定書の進展で世界の大幅削減を！
2. 日本で 2020 年 30%、2050 年 80%削減を！
3. 環境重視の社会経済システムを！
4. 市民・地域主導で温暖化防止の促進を！
5. 政策決定プロセスに市民参加と情報公開を！
6. 南北の公平をめざし、南の人々と連携を！

TOPICS

本当のところはどうなの！？
スマートグリッド
ヒートポンプ問題

【今号のメイン写真】

右上：8月1日に開催された MAKEe the RULE イベントの集合写真。

左下：にしきおひさま発電所（岡山県）点灯式の様子。

2010年夏の選択

浅岡美恵（気候ネットワーク代表）

この夏、熱中症での死者が300人を超えたという。救急搬送された人は数え切れない。ロシアで38℃を超える暑さが続き、早魃と山火事がすさまじい。ロシアの農作物は25%減産となり、輸出禁止となった。世界の食糧事情に影響を及ぼさずにはおかないだろう。パキスタンではインダス河流域の氾濫による被災者は1200万人に及び、死者は2000人を超えるという。

異常気象を伝える報道はさかんだが、「偏西風の蛇行」と現象分析で止まり、その先への言及が乏しい。この10数年、異常気象現象は確実に頻度を増し、極端化し、振幅を大きくしながら悪化傾向にあることを、市民は肌で体感している。原因に責任を持つ者が被害者に因果関係を証明せよと争うのは、公害訴訟で日常のことだった。解剖の結果をもって証明されたような歴史を温暖化防止で繰り返すことはありえない。少なくとも、今年の夏の異常は、気温上昇が続けば何が起こるのかを私たちに予見させるに十分だ。混迷する与党の代表選挙が終わり、やがて遅い秋が訪れるや、この夏の教訓が忘れられることがあってはならない。ねじれ国会とはいえ、温暖化対策を推進すべきとする公約を掲げる議会勢力は衆参ともに多数を占める。将来世代の安全は政治の責任だ。

しかし、与党の党首選挙だというのに、その先が見えないのはどうしたことか。1年前の「選挙公約」堅持を御旗とするグループは、25%削減目標とキャップ&トレード、温暖化対策税と再生可能エネルギー全量買取制度の導入を柱とする温暖化対策基本法制定という公約を忘れかけてはいないだろうか。他方、政権交代後の議論を踏まえた公約の見直しは当然だ。だが、国民が政権交代に託した方向を見誤った見直しや基本視点の忘却は、将来世代に禍根を残し、日本の経済再生の道を誤らせ、国際社会における日本への信頼を危うくし、存在感を失う。選挙後の政策を今、国民に示すべきだ。

エコポイントによる政府を挙げての買い替え促進と猛暑が空前のエアコン需要をもたらしたが、その業界も、この夏、消費者の厳しい目線を自覚しただろう。ヒートポンプの高い省エネ性能表示は、「爆風モード」「長時間使用」条件下での「偽装」だった。宣伝役を担ってきたのが、石炭火力発電によるCO₂排出増加をもたらしてきた電力業界である。

混迷の感のある与党代表選挙とその後、企業の本気の温暖化対策を、将来世代が見つめている。国民・消費者は、この夏の教訓を忘れない。

東アジアの低炭素地域づくり～会場の様子～



ワークショップの様子



司会を務めた李力さん
(北京環友科学技術研究センター代表)



中国の気候変動政策や現状を説明：
揚富強さん（WWF インターナショナル
気候変動ディレクター）



参加者の全体写真

8月2日から6日までドイツのボンで次期枠組みの特別作業部会 (条約AWG 第11 回会合、議定書AWG 第13 回会合) が開催された。

今回の会合は、両AWG の議長によってそれぞれ公表されたテキストをベースに、交渉がさらに前進し、今年11 月末よりメキシコのカンクンで開催される気候変動枠組条約第16 回締約国会議 (COP16)での政治的な大枠合意のイメージが見えてくるべき会議であった。しかし、交渉のペースは遅く、期待された進展は見られないまま閉幕した。

議定書AWG では、先進国の削減数値目標 (約束期間や基準年等)の議論を中心に、その他の議論 (森林吸収源や京都メカニズム、対象ガス)、そして、今後交渉が遅れた場合、京都議定書の約束期間との間に生じる空白期間がもたらす法的影響等についての議論を行った。最終日には、これまで議論してきたことをベースに、各国の立場をオプション別に整理した議長による議定書改正案が取りまとめられた。

条約AWG では、6月のAWG 会合を受け、会議開催前に議長から示された45 ページの新テキストをベースに交渉を進めようとした。途中、4つ (「共有のビジョン」「緩和」「適応」「資金、技術移転、キャパシティ・ビルディング」)のドラフティンググループに分かれて文書作りがなされた。このドラフティンググループでは、自由に案文の修文を提案する形式で議論が進められたため、コペンハーゲン合意の内容を反映させたい国とそうではない国が、それぞれの意見を議長テキストに追加し直す展開となり、最終的に作成した文書は70 ページに膨れ上がる結果となった。

次回AWG は、10月4日から9日まで、中国の天津で開催される。COP16 を含め今年の交渉会議はあと2回。しかし、カンクンでの合意のイメージは未だ見えてこないままだ。カンクンで合意を目指すならば、次の会議で本格的な交渉をただちに始めなければならない。初めて中国で開催される次回の国連交渉会議は、カンクンでの合意成立の鍵を握る重要な会議となるであろう。

議定書AWG 議長による議定書改正案 FCCC/KP/AWG/2010/CRP.2 (50 ページ)

http://unfccc.int/files/meetings/ad_hoc_working_groups/kp/application/pdf/kpawgcrp2.pdf

条約AWG 新議長テキスト FCCC/AWGLCA/2010/14 (70 ページ)

<http://unfccc.int/resource/docs/2010/awglca12/eng/14.pdf>

東アジアの低炭素地域づくり

～日中韓の環境NGO の新たな連携がスタート～

平田仁子 (気候ネットワーク)

東アジア地域での低炭素づくりのために日中韓の環境NGO が協力し、それぞれの国での気候変動対策を促進していくイニシアティブが始まった。7月2日にはその準備会合として、中国の北京で東アジア低炭素地域づくりワークショップが開催され、約50名が参加した。(写真:2頁)

主催は、日中韓の3カ国語で環境情報を発信してきた東アジア環境情報発信所 (日本)、市民環境情報センター (韓国)、中国低炭素年鑑 (中国)で、東アジア環境市民会議を2002年から隔年で開催してきた。

会合では、日本・韓国・中国のそれぞれの気候変動の事情を専門的見地から共有し、3カ国のNGO でどのように協力的に活動出来るかを議論した。参加者の間で、問題意識を共有し活発な意見交換が交わされ、今後協力関係を強めていくことと共通のアクションを取っていく方向性が確認された。3カ国の連携のみならず、中国国内の草の根の環境活動を行っているNGO から国際NGO までが一堂に会して議論を共有できたことも意義深いものであった。11月に韓国の光州市で開催される第5回東アジア環境市民会議において、このフォローアップを行う予定で、宣言文・アクションプランなどを採択することが検討準備されている。

気候ネットワークでは、これまで、南北のNGO の連帯を強めることをはじめ、国際的にはCAN (気候行動ネットワーク)を通じて世界各国の市民社会と情報を共有し、問題の解決に向けて協力的に活動を展開してきた。今後は、次回のUNFCCC のAWG が天津で開催される機会も生かしながら、東アジア地域で低炭素社会を作っていく日中韓のNGO の連携を強め、具体的な行動を進めていきたいと考えている。

参考:日中韓3言語環境情報サイト "ENVIROASIA" <http://www.enviroasia.info/>

スマートグリッド 国により異なる展開

山藤泰（関西学院大学大学院客員教授）

スマートグリッドを、米国のオバマ政権が経済活性化に向けた施策の中核として位置づけたことから、日本でも2009年から議論され始めたが、欧米では何年も前から具体的施策が推進されていた。

スマートグリッドとは

筆者によるスマートグリッドの定義は、まず再生可能エネルギー、特に、風力発電、太陽光発電といった不安定な電力を可能な限り受け入れるために、IT技術を基盤にした柔軟で強靱な送配電システムを国全体に確立すること。次に、双方向通信機能を持つスマートメーターを電力消費計量単位毎に設置し、これを介して電気事業者は電力の需要動向をリアルタイムで把握、消費者はメーターからの情報を使って自らのエネルギー消費をコントロールできるようにし、電力需要の変動も制御して送配電システムの安定化に貢献させる。この二つを統合して、エネルギー利用率の最大化、化石燃料消費の削減を実現する。

各国の状況

この概念をどのように具体化するかは、国や地域によって異なる。エネルギー政策や送配電システムの構造が、歴史的、制度的に違っているためだ。

米国の規制当局は、電力設備投資を削減して電力価格の上昇を抑えようと、電力需要抑制施策を実施することを電力供給事業者に義務づけてきた。結果として、発電設備や送配電システムの容量不足や老朽化が起これ、電力供給の安定性は低下して経済に悪影響をもたらしたが、この需要抑制施策の延長がスマートメーターの設置だと言える。一方、再生可能エネルギーの大幅導入促進を

電力事業に義務づける州も増え、風力発電の設置が急速に進展したために、システムの不安定化が加速されスマートグリッド導入は必然である。

欧州では、EU諸国を中心に地球温暖化対策として風力発電を中心にした再生可能エネルギーの導入とエネルギー消費の効率化促進施策が進められている。欧州では日常的に電力の輸出入が行われているが、国を繋ぐ広域連系を基盤にして自然エネルギー受入のためのスマートグリッド導入が推進されている。スマートメーターについても、EUは加盟国が2022年には全戸に設置完了することを義務づけているが、イタリアでは取付がほぼ完了しているし、英国は2020年の目標を早めようとしている。

中国を代表とする新興国でもスマートグリッド導入は必然。絶対的に送電容量の不足があるのに加えて、風力発電などの導入が急増しているからだ。

日本での現状

日本ではどうか。電力各社は電力設備投資をこれまで十分行い、制御のIT化も進んでいて、電力供給の安定性に問題はない。政府方針としてこれから大量の太陽光発電設備が導入されるが、これによるシステムの不安定化抑制が現在議論されている段階だ。風力発電は諸外国に比べて導入がほとんど進展していない。東西で電力周波数が違うこともあって、国を縦断する電力移動が難しいからだ。一方、スマートメーターを介した電力需要の管理は具体的な方向が見えない。国として早期にスマートグリッド化を進める緊急性がないとも言える。

スマートグリッドの導入は、小さ

な地域から国全体に拡大せざるを得ないため、10～20年を要する。その間には電気自動車や蓄電池、燃料電池などシステムに影響を与えるものも普及する。その制御も統合すると、標準化をはじめとして検討すべき課題は山ほどある。消費者がどれほど協力するかも欧米では問題となりつつある。事業としての市場規模は巨大だが、その動向はまだよく見えないのが現実だろう。

日本における展望・課題

日本は、地球温暖化対策に加えて、極めて低いエネルギー自給率を上げるためにも、太陽以上に風力エネルギーの利用に向けて積極的に取り組む必要がある。この観点で、先に緊急性がないと述べた日本へのスマートグリッド導入をあらためて論じてみる。

日本の送配電システムは不規則に変動する自然エネルギー、特に風力発電の導入が難しい構造になっている。電力会社が串型に繋がり、相互の接続容量が小さいため、風力発電からの電力を広範に移動させるのが難しいからだ。

太陽光発電の場合、電力需要が大きい昼間しか発電しないという安定性がある。その導入は全国均等に進むと想定されるため、それぞれの電力会社に対応することが可能だ。とはいえ、将来大量に導入されると、日本の電力需要が大きく伸びないとなれば、原子力発電に太陽光発電からの電力を重ねると発電量が総需要を上回る可能性もある。その場合、安全性の観点から原子力発電は稼働レベルを維持せざるを得ないために、太陽光発電の発電を抑制するか、蓄電するかの方策がとられるだろう。

また、ある地域に太陽光発電が集中して設置されると、その地域で昼の需要を上回る発電が行われ、配電網を逆流する可能性がある。

これを許すようなメッシュ型の配電網に変えるのと併行して、スマートメーターも含めたスマートグリッドの導入が必然となるが、時間をかけた対応は可能だ。

風力発電はどうだろう。風がよく吹くのは北海道、東北、九州地域であり、電力需要の大きい東京電力、中部電力、関西電力の管内に吹く風は弱い。とすれば、風力発電量の大きい地域から需要の大きい地域に電力を移動するような系統を構築しなければ風力発電の導入を増やすのは難しい。そのためには、少なくとも北海道電力と東北電力の間を結ぶ連系線と東京電力と中部電力の間を結ぶ周波数変換設備の容量を大幅に増やす必要がある。

それだけでは不十分だ。風力発電出力の変動を受け入れるために、沖縄を除く9電力全体を包括した一元的系統管理機能が必要となる。これは電力会社単位に縦割りとなっている送配電系統を水平分割するのと同じであり、現在の精密に構築された電力供給システムを根底から変えることに繋がる。実現させるのは至難のことだろう。

スマートグリッド実現に向けて

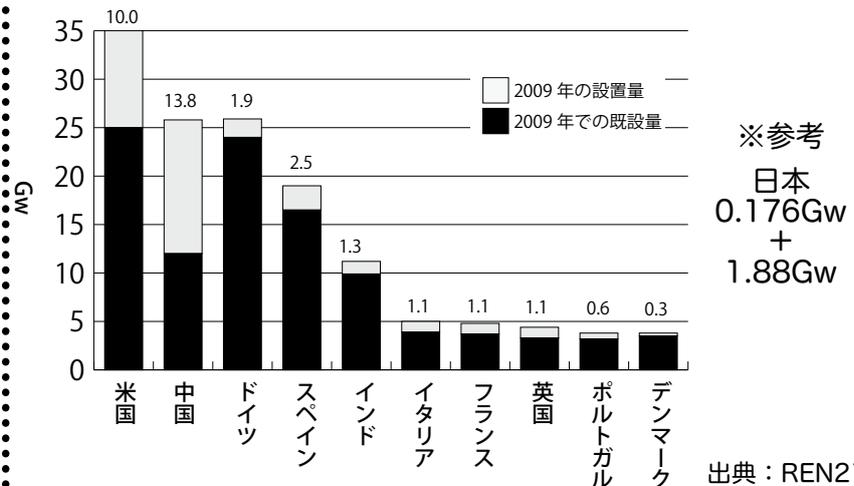
この障壁を乗り越える一つの方策として筆者が考えるのは、北海道から九州を結ぶ高圧直流幹線を新設し、風力を中心とする再生可能エネルギーからの電力を中央需要地に直接送れるようにすることである。直流を選ぶのは長距離送電での損失が

少なく、海底・地中への敷設もやりやすいからだ。この場合、各電力会社は現在の系統管理体系を大きく変える必要はなく、限られた地点で高圧直流を交流に変換して受け入れればよい。自然エネルギーの長距離移動を円滑に行うには、日本全体の電力需要動向を把握して発電を制御すると同時に、需要端でグリーン電力を使いたい消費者への供給を行える

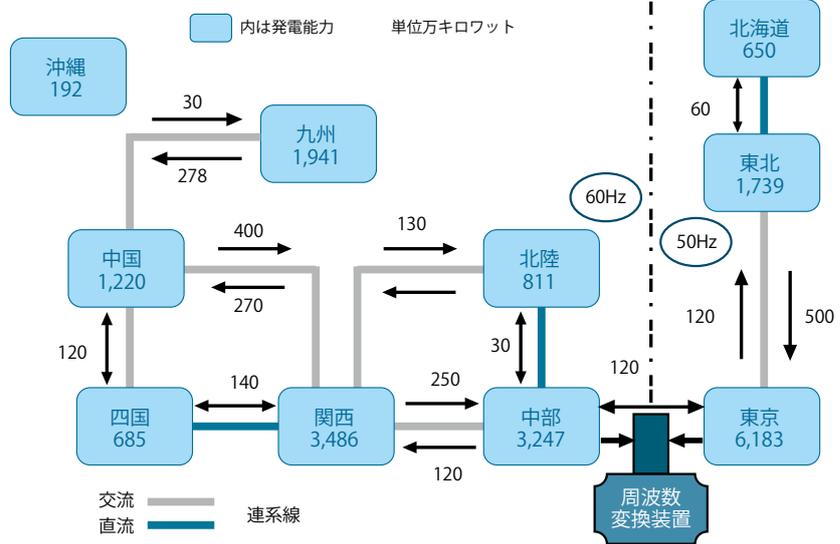
よう、日本全体を包括したスマートグリッドが実現されなければならない。

日本の風力発電潜在量は大きい。その早期顕在化を促進するスマートグリッド実現のために、日本列島を貫く高圧直流送電幹線の新設を提案したが、国益を重視したナショナルプロジェクトとして検討してほしいものだ。

風力発電設置容量—世界トップ10 諸国 2009年



日本の電力会社間連系容量



本のご紹介

『図解入門 よくわかる最新スマートグリッドの基本と仕組み』 エネルギー産業の現状と課題、未来を俯瞰する



スマートグリッドとは?という疑問に答えると共に、北米、欧州、新興国、日本における電力事業の背景と共にスマートグリッドの現状を紹介。スマートグリッドについて学ぶための最良の入門書となっている。

- 著者：山藤 泰
- 出版社：秀和システム
- ISBN-10: 4798026778

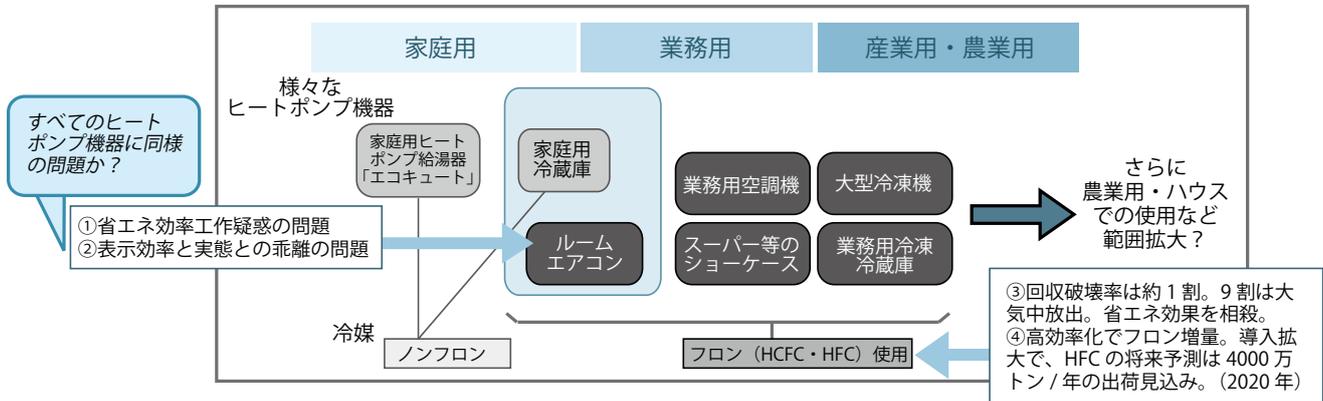
- 価格：1575 円 (税込)
- 出版年：2010 年 7 月
- ISBN-13: 978-4798026770

ヒートポンプ問題

桃井貴子（気候ネットワーク）

ヒートポンプとは、冷蔵庫、エアコン、給湯器、スーパーのショーケースや冷凍冷蔵庫、大型空調設備など、冷媒を膨脹・圧縮させることで熱を移動させる技術を指す。この数年、電力会社を中心に「ヒートポンプは地球温暖化対策の切り札」とのPRが行われ、省エネ型エアコンやヒートポンプ給湯器の導入が推進されてきた。しかし、ヒートポンプの表示性能のメーカーによる意図的なかさ上げや、フロンの放出実態の明るみから、地球温暖化対策にマイナスの効果があるとの疑いもある。

ヒートポンプ機器を巡る諸課題



◆省エネ性能が「過大」表示

今年6月、エアコンメーカー各社が省エネ性能を高く見せるために、測定時に特殊な方法を使ってCOP（成績係数：熱交換量が消費エネルギーの何倍かを示す指数）を過大に表示していた疑惑が浮上した。この測定モードは、轟音を出しながらエアコンが強風を吹き出すことから「爆風モード」と言われる。排出する風は、冷房の場合は生暖かく、暖房の場合は肌寒い温度での運転となり通常の使用状態と乖離しているがCOPは非常に高くなる。実際の使用時の効率ではカタログ値のような性能がほとんど出ていない。こうした疑惑が一部報道で取り上げられたことをきっかけに、経済産業省の審議会でも問題となり、メーカー団体が構成される日本冷凍空調工業会はこの事実があったことを認めた（7/26 産業構造審議会化学・バイオ部会地球温暖化対策小委員会冷媒対策WG）。各メーカーが「不正表示」に手を染めたといわれる2004年以降、ルームエアコンの表示効率は劇的に高まり、トップランナー基準を達成するようになった。

さらに、JISの条件下で測定したカタログ値は、実際使用上の効率との間に乖離がある。ルームエアコンに限らず、エコキュートなどでもカタログ値だとCOP4前後とされているところが、一般的な家庭では実使用環境においてCOP2前後程度にまで低下しているという指摘もある。

◆フロン問題

省エネ効果が注目されるヒートポンプは、家庭用エコキュートなどほんの一部の機器を除き、冷媒にフロンを使っている。地球温暖化係数がCO₂の2000～3000倍程度と非常に高い温室効果を持つフロンHFCがほとんど

だ。しかも高効率化のために、熱交換機やコンプレッサーを大型化し冷媒フロンの増量につながっている。

フロンは「フロン回収・破壊法」で回収が義務付けられているが、慢性的な回収率の低迷や過大な稼働時漏洩が常態化し、9割方が大気に放出されているのが現状だ。現在のようなフロン対策では、省エネ効果はすべて相殺されるか、あるいは地球温暖化対策にマイナスにすらなる。

気候ネットワークなど市民団体8団体は共同で、エアコンメーカーに対して公開質問状を投げかけた。しかし、上記のような問題に明確に対応し、今後の方針を示した企業は一社もなかった。

（回答のとりまとめは気候ネットワークWEBサイトを参照。<http://www.kiconet.org/iken/kokunai/2010-08-19-1.html>）

◆ヒートポンプ問題への対応

ヒートポンプを推奨する「ヒートポンプ・蓄熱センター」の試算では、ヒートポンプの導入が進めば、2020年には3200万トン、2030年には5700万トンのCO₂削減効果があるとしている。しかし、日本冷凍空調工業会のHFCの将来予測では2020年には4000万トンと出荷量が激増している見通しで、省エネ効果が相殺される量だ。

これまで、効率表示の実使用効率との乖離やフロン問題が無視された状態で、「省エネ型エアコン」や「エコキュート」などのヒートポンプは推奨されてきた。エネルギー基本計画でも「くらしのCO₂半減」の目標の大半をこのヒートポンプが占める。また中長期ロードマップでもヒートポンプ給湯機や省エネ型エアコンには過大な期待がかけられている。しかし、政府はこうしたヒートポンプの問題を客観的に検証し、その推奨をリセットすべきではなかるうか。



灼熱の太陽のもとで、2周年記念イベント 『次の国会で行くぜ！』

★灼熱イベント “法案・廃案・MOTTAINAI・・・”

桃井貴子（気候ネットワーク）

8月1日、MAKE the RULE キャンペーンは、キックオフから早くも2周年を迎えました。連日の猛暑続きの夏で、例外なくこの日も灼熱の東京。そんな中、日比谷のビル街にある野外イベント会場「日比谷パティオ」で、2周年を記念するイベントを開催しました。先の国会で「基本法」が廃案となったことを受けて、改めて法制化に向けて気合をいれなおす企画です。出演は、呼びかけ人のルー大柴さん、吉本多香美さん、Sascha（サッシャ）さん、実行委員長のシロベエ。太陽光パネルで発電しながら電子ピアノを演奏するピュアニストの石原可奈子さんが、自ら作曲した「ACTION（アクション）」の演奏で開幕しました。

トークでは、ラジオDJとして活躍中のSaschaさんの進行で、ルーさん、吉本さんから、生態系保全や六ヶ所明日の森をつくる会の活動について紹介があり、クイズなども交えながら、楽しく繰り広げられました。多方面で活動するルーさん、吉本さんは、地球温暖化対策で日本の中でしっかりと社会のルールづくりや削減に向けたしくみが必要で、今回の基本法が廃案になってしまったことは非常にもったいない！と・・・。

ルーさんが、ルー語を交えて待ってましたとばかりにMOTTAINAIの歌の準備の後、NHKの「みんなのうた」にもなった軽快なラップミュージックで、会場一体となるダンスをしながら賑やかに盛り上がりました。当日参加できなかったかたは、ぜひYou Tubeでの録画をご覧ください！



トーク中のSaschaさん、ルーさん、吉本さん



MOTTAINAIの歌にあわせてのダンス

★次の国会で行くぜ！

振り返ればこの2年、MAKE the RULE キャンペーンを通じて様々なアクションを展開してきました。30団体ほどでスタートした参加団体は約200団体にまで増え、法案委員会では法律の市民案を作成、議員会館での連続勉強会、地域セミナー、37万人以上の署名活動、100以上の地方議会からの法案成立に向けた決議などなど、地域での地道な活動との連携なくしては、ここまでの積み上げができなかったでしょう。国際的な合意をしっかりと結んでいくためにも、そして国内対策を確実に進めるためにも、9月から始まる臨時国会で法律を成立させる必要があります。そのために、MAKE the RULE キャンペーンも全国各地の力を結集させていきたいと考えています。

◎臨時国会での成立に向けた草の根活動を！

地域からの働きかけとして、ぜひ次のことを展開してください。

🐾 ハガキ作戦

先の国会で使った地球温暖化を防ぐ法律の制定を、地元選出の議員全員にハガキで送ってください。すでに一度送っている方も、法案が廃案になってしまったことを受けて、臨時国会での成立を望んでいる声を届けましょう。

ハガキのダウンロードはこちらからできます。 URL: <http://www.maketherule.jp/dr5/hagaki>

🐾 地元選出議員にロビー

直接、国会議員の事務所にアポイントをとって、地球温暖化対策の中長期目標とその削減に向けた具体的なしくみの法律の必要性をお話ししてください。



川口市 エコライフ DAY 報告

浅羽理恵（NPO法人 川口市市民環境会議）

埼玉県川口市では、私たちのNPOと川口市・川口市教育委員会との共催で、地球温暖化防止の“はじめの1歩”として、年に1日みんなでCO₂削減にチャレンジする「エコライフDAY」を実施しています。エコライフDAYと定めた日に、市民の皆さんに環境の事を考えた生活をしてもらい、その結果を一日版環境家計簿の“チェックシート”に記入してもらおうというもの。チェックシートには、普段の生活をチェックする“いつも”の欄と、エコライフDAYの日の行動をチェックする“きょう”の欄があり、取組んだ結果おおよそ何グラムのCO₂を削減できたか把握でき

る仕組みになっています。

11年目にあたる今年は、6月13日(日)に実施しました。2000年に始めた当初の参加者数は17,625人でしたが、その後、市や教育委員会も共催に加わったことで参加者は大きく増加し、今年度は市民の15%に相当する78,838人が参加、この日削減できたCO₂は5.2トンでした。これまでのデータを分析してみると、全体的にこの11年間で市民の普段の生活が環境に配慮したものに変わっているという効果も得られています。

次のステップとして、8月の1ヶ月間、省エネにチャレンジする「チャレンジ・エコライフ」を市と共催で昨年より実施していますが、昨年は2,000人を超える市民が15トンのCO₂を削減（前年同月比で13%減）しています。今後はこれら“省エネ”と同時に、「かわぐち自然エネルギー学校」の開催（今年度からスタート）や、いずれは市民共同発電所の設置にもつなげ、市全体での盛り上がりを作っていきたいと考えています。

項目	117年 前年比		117年 前年比		117年 前年比		117年 前年比	
	削減	削減	削減	削減	削減	削減	削減	削減
冷蔵庫の扉をすぐ閉めた。	21	21	21	21	21	21	21	21
使わない部屋の明かりを消した。	34	34	34	34	34	34	34	34
使っていないときは、テレビを消した。	42	42	42	42	42	42	42	42
電化製品を稼働しないときは、電源を切るかプラグを抜いた。	14	14	14	14	14	14	14	14
コンロの火が弱火から強火に上がった。	220	220	220	220	220	220	220	220
お風呂はさめないうちに、みんなで続けて入った。	34	34	34	34	34	34	34	34
ご飯やおかずを残さず食べた。	40	40	40	40	40	40	40	40
近くの産地でとれたものを食べた。	5	5	5	5	5	5	5	5
靴のものを食べた。	36	36	36	36	36	36	36	36
レジ袋をもらわなかった。	90	90	90	90	90	90	90	90
エコ商品を買った。(省エネ電球や省エネLEDなど) (めんたいもど)	119	119	119	119	119	119	119	119
ごみ分別を分けた(紙類を分別した)。(車の内装を拭くときなど)	3	3	3	3	3	3	3	3
マイクシャワーヘッドを右に履き替えた。(車の内装を拭くときなど)	17	17	17	17	17	17	17	17
車を洗った(洗車機などを利用せず)。(車の内装を拭くときなど)	19	19	19	19	19	19	19	19
シャワーやお風呂の湯を流すとき、水を流さずお湯を溜めた。	236	236	236	236	236	236	236	236
自転車やバイクを乗らずに、徒歩・自転車・バス・電車を利用した。	8	8	8	8	8	8	8	8



認定NPO法人 おかやまエネルギーの未来を考える会（エネミラ）活動紹介

11年目の活動にチャレンジ

廣本悦子（おかやまエネルギーの未来を考える会代表）

今年7月でエネミラ発足10周年を迎え、じっくり歩みを振り返るゆとりのないまま11年目に突入しています。これまで、市民共同発電所の設置やベレットストーブ・太陽熱温水器の導入、各世代向けの環境教育の実施、イベントの企画運営や出展、それにMAKE the RULEキャンペーンへの参加等々に取り組んできましたが、最近では主要スタッフの高年齢化が進み、活動内容を見直す必要に迫られています。そこで、今年度は「気候ネットワーク」が実施している「こどもエコライフチャレンジ」に学び、岡山版を実施する予定で準備を進めています。

また、市民共同発電所3号機を岡山市立福渡保育園に設置する計画もスタートしました。事業費の半額を国の補助金、残りを寄付金と自己資金で賄う計画のため負担は大きいですが、発電分は岡山市に帰属するものの、発電量に相当する交付金が17年間交付される仕組みのため、不足分とメンテナンス費用はいずれ確保できる見通しです。当会の事業は「自治体との協働による取り組み」が特徴で、昨年、「新エネ百選」に選定されました。県外の自治体からの視察、問い合わせも複数あり、同様の取り組みが各地に広がっていくことを願っています。

こうした活動を継続していくには組織の維持運営の強化も必要のため、今年3月、一念発起して国税庁へ「認定NPO法人」の申請を行ない、7月16日に「認定」を受けました。岡山県内では初めて、中国地方では2番目の認定とのこと。これにより財政基盤を強化し、低炭素な地域づくりにさらに邁進していきたいと考えています。



自然エネルギー体験キャラバン

会員懇談交流会・京都を開催しました。

7月24日(土)に開催しました「会員交流懇談会・京都」には、関西在住の会員の方々とスタッフあわせて20名以上が集まりました。アイスブレイクのゲームでみんなが打ち解けたあと、スタッフの手作りのお菓子を味わいながら、グループ毎にKJ法を使って気候ネットワークに対する評価と課題を模造紙にまとめて発表しました。参加者からは「積極的で専門的な政策提言が評価できる唯一無二の団体である」、「ボランティア・インターンが多く若い力が発揮されている」、「人材育成や財源確保が課題と思われる」などの意見がでました。地球温暖化防止の具体的な方策や提言や参加者の活動紹介などもだされ、交流が行われました。会員の方々の活動の様子や、気候ネットワークに対する生の声を聞くことができ、スタッフにとっても有意義な時間となりました。

最後に、抽選で当たった方に、浅岡代表から、昨年国連交渉会議でアフリカ、ガーナに訪れた際購入した絵がプレゼントされました。また、当日参加者のうち、設立当初からの会員で当日も参加いただいた2名の方に感謝状と記念品を贈呈致しました。当日参加できなかった、設立当初から会員になってくださっている方々には、郵送にて感謝状と記念品をお送りさせていただきました。今後とも、気候ネットワークをご支援くださいますよう、どうぞよろしく願いいたします。

次回は、東京での開催を予定しています。



グループでの交流の様子



感謝状の贈呈

ご支援ください



Just Giving Japan ～ あなたのチャレンジで気候ネットワークへの寄付を集めてください！ ～

Just Giving Japan(ジャスト・ギビング・ジャパン)は、個人が何かにチャレンジ(目標達成)することで、それを応援してくれる人からの寄付を集めて社会貢献できる仕組みです。寄付されたお金は、自分が支援する特定のNPOやテーマ(環境、教育、国際協力など)の団体に寄付されます。

参加条件は特になく、誰でも参加できます。チャレンジする内容は、どんなものでもかまいません。マラソン完走やゴルフのスコアアップ、ダイエット、資格試験合格など、さまざまです。ちなみに、当団体スタッフによって、祝島マラソンへの出場・完走を通じて、脱温暖化と脱原発を訴えるというチャレンジが、8月末まで行われています。

是非、みなさまもこの仕組みを使って、気候ネットワークの活動をご支援ください。

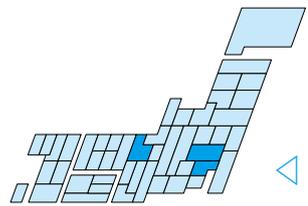
Just Giving Japan <http://justgiving.jp/>

京都地域創造基金への寄付募集中

社会をよりよくする革新的な寄付のしくみをめざしている京都地域創造基金の支援を得て、「低炭素のまち京都をつくるプロジェクト～協働の場・人づくり～」に取り組みます。みなさまから同基金に気候ネットワークの事業を指定してご寄付をいただければ、この活動への助成になります。

京都地域創造基金は公益財団法人であり、寄付者・寄付企業は税額控除を受けることができるものです。ぜひご活用ください。詳しくは、同基金または京都事務所までお問い合わせください。

京都地域創造基金 <http://www.plus-social.com/>



各地のイベント情報

- | | |
|--------|---|
| 京
都 | <p>■「人間と自然の共生をもとめて」生物多様性条約締約国会議会議（COP10）記念フォーラム</p> <p>○日時：9月20日（月・祝日）13:00～17:00</p> <p>○会場：ハートピア京都（地下鉄丸太町5番出口側）URL:http://www.heartpiakyoto.jp/access/index.html</p> <p>○講演：「自然とともに生きる」講師：上遠恵子氏（レイチェル・カーソン日本協会会長、エッセイスト）
報告1：COP10 成功のために（生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会）
報告2：「みんなでさがそう 京都の生き物」の取り組み、講師：宇高史昭氏（京都市環境管理課課長）
報告3：里山の森とともに、講師：久山喜久雄氏（フィールドソサイエティ代表）</p> <p>○上映：映画「オーシャンズ」（15:00～） ○参加費：500円</p> <p>○主催：コンシューマーズ京都・地球温暖化防止京都ネットワーク</p> <p>○問合せ：【TEL】075-251-1001、【FAX】075-251-1003、【Email】JRCC@mb6.seikyoku.ne.jp</p> |
| 東
京 | <p>■「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会 プラス
鎌仲ひとみ監督×田中優×マエキタミヤコの特設対談</p> <p>○日時：10月30日（土）14時から ※2回上映入替制</p> <p>○会場：江戸川区立西葛西図書館 ○参加費：前売1,000円（当日1,200円）</p> <p>○内容：山口県上関原発の建設反対運動を続ける住民の姿と脱原発をめざす
ヨーロッパの状況を映したドキュメンタリー映画。日本のエネルギーのあるべき姿を提案します。</p> <p>○問合せ：足温ネット（Email, info@sokuon-net.org）</p> <p>■「市民のための環境公開講座」</p> <p>【パート2 日本の文化と生物多様性の調和】</p> <p>○日程：9月7日 香坂 玲氏（名古屋市立大学大学院経済学研究科准教授）
9月14日 梶田 真章氏（法然院貫主） 9月21日 中村 桂子氏（JT生命誌研究館館長）</p> <p>【パート3 国際交渉の真実に迫る】</p> <p>○日程：9月28日 古屋 昭彦氏（外務省特命全権大使〈地球環境問題担当〉）
10月5日 池原 庸介氏（世界自然保護基金ジャパン気候変動オフィサー）
10月19日 竹内 敬二氏（朝日新聞編集委員）※すべて火曜日</p> <p>○時間：18:30～20:15（受付開始18:00）</p> <p>○会場：株式会社損害保険ジャパン本社ビル2階大会議室（新宿駅西口から徒歩7分）</p> <p>○参加費：各パート1,000円（3講座分）※学生半額</p> <p>○対象：誰でも参加OK 定員250名（定員となり次第締切）</p> <p>○主催：社団法人日本環境教育フォーラム、財団法人損保ジャパン環境財団、株式会社損害保険</p> <p>○お申込・詳細：http://www.sjef.org/kouza/ ※JEEF会員はお電話にてご連絡ください（TEL.03-3350-6770）</p> |
| 埼
玉 | <p>■「かわぐち自然エネルギー学校」</p> <p>○日程：第1回「自然エネルギー入門」10月16日 講師：都筑建氏（太陽光発電所ネットワーク事務局長）
第2回「太陽光発電について知る」11月13日 講師：宮下洋一氏（(株)エコテック）
第3回以降は、12月18日、1月22日、2月19日の開催</p> <p>○時間：10時～12時 ※第3回のみ17時まで</p> <p>○会場：リリア中会議場（川口駅すぐ）※第3回のみ調整中</p> <p>○参加費：全回参加で、計3,500円 ○定員：30名（原則として全回参加可能な方、先着順）</p> <p>○お申込・詳細：NPO法人川口市民環境会議（TEL:080-5699-1154）http://www.ne.jp/asahi/eco/ecolife/</p> |

市民が進める温暖化防止 2010 ～気候変動の警告にどう応える(仮)～

地球温暖化がもたらす異常気象が猛威をふるっています。地域レベルの対策促進、国の政策・仕組みづくり、国際合意を早急に進めなければ手遅れになってしまいます。今回のシンポジウムでは、温暖化問題・対策に関する最新の動向を知り、重要かつ緊急なテーマについて議論します。

■日時：11月20日(土)～21日(日)

■会場：同志社大学(京都市上京区)

■プログラム(予定)：

- ・異常気象による被害報告
- ・国際交渉最新動向・カンクン会議(COP16)の論点
- ・地球温暖化対策基本法の最新動向
- ・特別企画：「ビューティフルアイランズ」上映(海南友子監督)

*詳細は追ってご案内します。

連続セミナー「理解を深める！国内の温暖化対策」

危険な気候変動を回避するためには、2020年に25%削減の実現が不可欠です。早急に実効性のある対策の枠組・基盤づくりを行う必要があります。そのための法律・具体的な政策はどうなっているのでしょうか。最新の動向について共有・議論するために、連続セミナーを開催いたします。地域の対策を進めるためにも重要な議論を行う予定です。ご参加お待ちしております。

○第1回 国内対策の概要と基本法の最新動向

■報告：永見靖氏(環境省地球温暖化対策課)、浅岡美恵(気候ネットワーク)

■日時：9月16日(木) 18:30～20:45

■場所：ハートピア京都(京都市中京区) 第5会議室

○第2回 排出量取引制度・炭素の価格化(仮)

■報告：植田和弘氏(京都大学大学院)、山岸尚之氏(WWF ジャパン)

■日時：10月19日(火) 13:30～16:45

■場所：メルパルク京都(京都市下京区) 研修室3

※参加費(1回2回とも)：会員無料 一般500円

◎最近の活動報告◎

- 「気候変動に関するボン会議報告会～メキシコ・カンクン会議での合意は見てきたのか～」を開催しました。(8/30)
- オフセット・クレジット(J-VET)制度における対象プロジェクト種類の追加に対する意見(パブリックコメント)を環境省に提出しました。(08/19)
- 「ヒートポンプをめぐる諸問題」を発表し、「ヒートポンプ問題連絡会」を発足しました。(08/19)
- プレスリリース『「ヒートポンプの性能表示に関する公開質問状」エアコンメーカーの回答とその分析と評価』を発表しました。(08/19)
- 高速無料化社会実験に関する評価ペーパーを発表しました。(08/04)
- 環境省中央環境審議会地球環境部会フロン等対策小委員会第二回会合ヒアリング資料を発表しました。(08/04)
- MAKE the RULE キャンペーン2周年記念イベントを開催しました。(08/01)
- 会員交流懇談会・京都を開催しました。(07/24)
- 環境省における、平成23年度の税制改正要望事項への意見を発表しました。(07/20)
- ヒートポンプの性能測定方法に関する公開質問状を送付しました。(07/12)
- 「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」に基づく2008年度の事業者の排出量集計結果に対する速報分析」を発表しました。(07/09)
- 「第5回 低炭素のまち・京都をめざす懇談会」を開催しました。(07/6)

本のご紹介

『自然エネルギー白書2010』



国内では初の自然エネルギー白書であり、国内外の自然エネルギーの概況や政策動向等についてまとめられている冊子です。豊富なデータと分析、普及のための提言も掲載されています。

気候ネットワークにも在庫があります。

○作成：自然エネルギー政策プラットフォーム

○編集：環境エネルギー政策研究所編集

○価格：1000円(税込)

スタッフから ひとこと

夏の暑さで国内の3万人以上が熱中症で病院に運ばれたとのこと。パキスタン、ロシア、中国などの異常気象被害もさまざまです。これらが、気候変動の問題と捉えられていかないことに違和感を覚えます。これ以上、災害で苦しむ子供たちが増えないでほしい、と願う夏でした。(平田)

7月17日の祇園祭巡行の際、町内にある「太子山」のおともをしました。袂を着て約4時間炎天下での巡行でした。祇園祭も当初はその時代の大問題を解決するための民衆による行事だったと想像します。今こそ、温暖化防止に向けて市民のパワーを結集することが必要だと思います。(田浦)

個人のチャレンジを通じて寄付を集める「Just Giving」に、祝島マラソンに出場して脱温暖化×脱原発を訴えるというチャレンジで参加しています。今日までに集まった寄付金額は10,816円。目標にはまだ届きませんが、マラソンと共に一步一步進めていきたいと思っています。(豊田)

帰省した鹿児島でも口蹄疫の影響で、いたるところに消毒場所が設けられていました。また集中豪雨の爪痕も悲惨な状態で残ったままでした。ウイルスの恐ろしさと同様に、今夏の猛暑やゲリラ豪雨は警告と共にコクコクと恐び寄るような、迫りくる自然の驚異を感じさせます。(田中)

気候ネットスタッフで、MOTTAINAIダンスチームをつくったり、マラソンチームをつくったり、暑さに負けず熱い夏でした。8月29日は山口県は祝島の「不老長寿マラソン大会」に出場です。チーム最高齢(!?)の私。暑いさなかどうなることやら。(桃井)

今年のお盆は遠方へ行くことはなく、市内でのイベント、「京の七夕」へ繰り出しました。人の多さと暑さに驚きましたが…友禅染やライトアップ、竹のアートなど素敵でした。こちらは、放置竹林の利用など、自然環境にも考慮されているとのこと。今年が初の取り組みということですが、来年の開催があれば、是非短冊に願い事をかいて参加したいと思います。(榎原)

遂に「不惑」を迎え、気候ネットワークスタッフにサプライズでお祝いしてもらいました。精神的にも肉体的にも少し丸くなったものの、実際は、まだまだ未熟です。「不惑」なんてとんでもないです。でも、今まで生きてきたのと同じくらいの高さをこれから生きていくのかなと考えるとなんか楽しみ。新しくヨガとランニングにもチャレンジし始めました。来年は、気候ネットワークの他のスタッフとどこかのマラソン大会に出られるといいなあ。(川阪)

スタッフの松本さんが8月から産休になりました。9月は周りが「出産フィーバー」で従姉妹の2人や知人が出産予定です。たくさんの新しい命が生まれ、育まれるこの地球の未来のために、地球温暖化活動に打ち込みます。(佐藤)

次の方から寄付をいただきました。誠にありがとうございました。

余語盛男、喜岡笙子、宮田浩和、木川好、和泉憲昌、小関千秋、中須雅治、森崎耕一
(敬称略、順不同、2010年7月～8月)

気候ネットワーク通信 74号 2010年9月1日発行(隔月1日発行)

代表: 浅岡美恵、副代表: 須田春海、事務局長: 田浦健朗

編集/DTP: 豊田陽介、榎原麻紀子、佐藤大輔

特定非営利活動法人 気候ネットワーク <http://www.kikonet.org>

【京都事務所】

〒604-8124
京都市中京区高倉通四条上 高倉ビル 305
Tel:075-254-1011/Fax:075-254-1012
E-mail:kyoto@kikonet.org

郵便振替口座 00940-6-79694 (気候ネットワーク)
銀行振込口座 リソナ銀行 京都支店 普通口座 1799376 (特定非営利活動法人気候ネットワーク)
三菱東京UFJ銀行 京都支店 普通口座 6816184 (特定非営利活動法人気候ネットワーク)

【東京事務所】

〒102-0083
東京都千代田区麹町 2-7-3 半蔵門ウッドフィールド 2階
Tel:03-3263-9210/Fax:03-3263-9463
E-mail:tokyo@kikonet.org